



労働意欲と責任における就業環境

令和6年10月18日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

アメリカの就業環境が、自主性と責任に立脚することは理解すべきである。これらがより優れた時代性と共に企業環境を有し、自主性という彼らの特性における企業環境の完成を与えることは企業経営における理解として提案できるものである。

これらは強制という現実が他方に存在するのである。これらは労働意欲の減退と利益主義という低い企業倫理性を与え、企業経営の誤りを生むと考えるべきである。

これらは企業と就業における公正さという健全性の構築が、正しい労働意欲を与え、より優れた企業経営を実現できることを意味するものである。

全ての優れた企業はこれら現実を有することは理解されて良い。これらは社員が自主性と意欲において、企業の進歩を与え、それらは時代性や先端性を可能とするためである。

これらは新しい次元と未来への参加は、その共有のルールと基準を要求することは理解されて良い。それらは自主性における就業と正しい意欲の形成におけるより優れた企業倫理性の構築である。

これら企業の健全性は、時代性と先端性において企業の新しい現実への参加を与えることができるのである。

これらは、グローバル化における統一基準における企業経営の確立とそれらグローバル市場への対等な参加である。

これらは西洋という倫理的な要求を有する世界におけるグローバル化という潮流への参加における正しい選択と考える。

これらは企業が自己の独立性を行うことにおいて、必ずその対等性の確立を必要とするためである。時代はその進歩を有する。それにおいてこれらは、企業の取り組み課題として提示できるものである。